

〈作 品〉

## A Moment

前 田 夏 樹

Natsuki MAEDA : A Moment

本作品では鑑賞者に対し、作品上における「瞬間」の存在を意識させることをねらいとした。そのための表現方法の工夫として、漫画や映画に見られる「コマ」という形態を取り入れた。

キーワード：瞬間 時の流れ コマ 異なる視点

作品タイトルの「a moment」は、「瞬間」や「刹那」という訳を想定したものである。このタイトルを用いたのは本作品が初めてではなく、以前にも何度か制作している。これは近年の作品制作において、一貫したテーマとしている「時の流れ」の表現に関連がある。「時の流れ」を「瞬間」の積み重ねと捉えれば、作品における「瞬間」の表現が、鑑賞者にその「瞬間」の時間的な前後関係を想像させ、そこから「時の流れ」の存在を意識させたいと考えるのである。

本作品では、「瞬間」の存在をよりわかりやすく伝えるために、表現方法にいくつかの工夫を試みた。この時に参考にしたのが、漫画や映画といったメディアである。これらのメディアでは、「瞬間」を「コマ」という形で表現し、この「コマ」の集合体がひとつの作品を構成している。特に漫画では、ひとつの画面に複数の「コマ」が構成され、その形態や配置にも工夫が凝らされている。さらに各「コマ」の中身については、さまざまな視点から捉えられており、その大きさや角度など表現に工夫が見られる。

この「コマ」を本作品における表現方法の一つとして試みたのが、画面左右の重なった長方形と四方に配置したものである。

それぞれのコマ内は、大きさや角度に変化をつけて表現しており一つの視点からでは捉えることがで

きない、人物の表情や手足等のパーツを描いている。このように一つの画面上にさまざまな視点から捉えたものを描くことは、以前からも試みていたのだが今回「コマ」という形をとることで、これまでとは違ったアプローチで表現することができた。

また、左右の長方形のコマには複数のコマが重なっているように表現している。これは「コマ」を「瞬間」として捉えた時に、最も手前にあるものが今現在の「瞬間」であり、それ以前には過去の「瞬間」が積み重なっているということを意図している。さらにこの表現方法によって、現在が過去の積み重ねによって存在しているということだけでなく、同時に未来の「瞬間」の想起を促すねらいもある。

このほか技術的な面では、アクリル絵の具の使用が「コマ」の表現に適していたといえる。アクリル絵の具の特徴でもある発色の良さが、隣り合った「コマ」と背景の区別をより明確にし、「コマ」の存在感を高めることができた。

以上のように本作品では「コマ」という形態を通して「瞬間」の表現を試みた。このような試みも、作品だけを見た人にはなかなか伝わりにくいものである。本文によって作品の解説の場が与えられることは、作者にとって大変喜ばしいことであり、作品を鑑賞していただく際に本文がその一助となれば幸いである。

